

# 平成28年度 学校評価一覧 足利市立毛野南小学校

目標	重点項目	主な具体策	評価指標	評価方法・評価基準	関連アンケート等	肯定回答	教職員による自己評価	学校評議員による学校関係者評価
確かな学力へ楽しく学び考える子	①読書指導の充実を図る。	●児童の発達段階に応じて「おすすめの本」を提示するとともに、「この本読もうよカード」を配付して活用をすすめる。	●各学年別に国語の教科書に載っている「おすすめの本」を示し、「この本読もうよカード」の活用を図ることによって、児童の読書意欲を高めている。	●「おすすめの本」を目標とする冊数分読んだ児童の割合（低学年20冊、中学年10冊、高学年5冊）→50%以上の児童が目標冊数以上を読破	児No.13 保No.11	65.5% 56.8%	◆年度当初に目標冊数を児童に示し、継続的に啓発することで、良書に親しませていきたい。 ◆今後も、各学年の廊下に「おすすめの本コーナー」を設置したり、「読書のがんばり賞」を授与するなどして、児童の読書意欲を高めていきたい。 ◆読書月間中に「ノーテレビ(ゲーム)デー」を設定することも検討したい。	◇必読書として「おすすめの本」を設定しているため、子供たちも取り組みやすくなっている。 ◇目標冊数をさらに増やしてみてもよいと思う。 ◇今後も学級文庫を充実させるなどして、身近なところに本がある環境を保ってほしい。 ◇家庭学習を実施している児童の割合が高い。やらなければならないというより、やるくせがついていて、家庭学習が当たり前になっている。 ◇担任が自主学習ノートをよく見てコメントを書いてくれることもあるが、保護者もノートを見て、励ましの声掛けができるとよい。
	②家庭学習の定着を図る。	●全学年に「家庭学習の手引き」を、4年生以上に「自主学習のすすめ」を配付し、やってきた課題を見取る。	●意欲的に学習に取り組もうとしている。	●「学年×10分」の家庭学習をやってきた児童の割合→80%以上の児童が達成	児No.12 保No.10	94.3% 81.6%	◆長期休業中も継続して自主学習に取り組ませたことで、学習習慣が定着してきた。 ◆低学年でも、読み書きを中心とした自主学習に取り組むよう働きかけをしたことにより、宿題に加え、自主学習に取り組む児童が増えてきている。	
豊かな人間性へ思いやりのある子	①人権を基盤とした人間関係の形成を図る。	●夏季と冬季の年2回、人権週間を実施し児童の人権意識を高めるとともに、学期に1回人権だよりを発行し保護者啓発を図る。 ●がんだり賞・思いやり賞を授与して、一人一人の児童のよさを認め、励ます。	●人権週間中に、人権集会を開いたり、人権だよりを作成し保護者に内容を説明したりして、人権に対する啓発に努めている。 ●全職員が児童のよさを共有している。	●QU(楽しい学校生活を送るためのアンケート)や、児童・保護者対象のアンケート→「学級生活満足群」に入っている児童が80%以上 ●児童のよさが記されている推薦用紙を回覧し、内容を確認する頻度→毎月、回覧・確認	QU 児No.6 児No.8 保No.3	84.5% 98.0% 96.9% 81.2%	◆年2回の人権週間における人権作文や標語の作成、さらに、人権だよりの発行回数が増加により、児童や保護者の人権意識の高揚を図ることができた。 ◆児童のよさを教職員や児童同士で認め励ますとともに、がんだり賞・思いやり賞の授与で、児童の自尊感情を高めることができた。 ◆毎月の「いじめSOSシート」やQUの結果を受けて、児童の実態の把握や指導の在り方を振り返ることにより、児童が安心して生活できる環境となっている。 ◆児童指導の充実を図るため、情報交換の時間を十分に確保したい。	◇人権標語をラミネートし、人権ステッとして階段に掲示している点が素晴らしい。 ◇子供たちは、照れることもなくしっかりと挨拶ができている。 ◇学校以外で、道ですれ違った時などでも、きちんと挨拶できる子供が多い。 ◇「子どもの人権SOSモニター」なども、いじめの早期発見・早期対応に有効であると思われる。 ◇朝の会では、子供たちの元気な歌声や生活のめあてを唱和する声が聞こえ、クラスが一丸となっている雰囲気伝わってくる。
	②「なかよし班活動」(異年齢交流活動)や「いちご活動」(1・5年生の兄弟学年活動)の充実を図る。	●なかよしサークル(月1回)やあいさつ運動(学期に1回)、清掃活動(毎日)を効果的に実施する。	●なかよし班活動を実施することにより、集団への連帯感を深め、望ましい人間関係の形成に努めている。	●児童アンケート→肯定的回答が80%以上	児No.5	99.2%	◆なかよし班活動が充実している。また、「いちご活動」の名称も定着し、活動もまとまりのあるものになった。 ◆上級生が挨拶や返事、積極的な行動等、下級生の手本となる活動が見られ、学校全体が何事にも意欲的に取り組む雰囲気となっている。	
健康・体力へたくましい子	①基本的な生活習慣を身に付ける。	●早寝・早起き・朝ご飯の習慣を身に付ける。	●児童が基本的な生活習慣の意義を理解し、身に付けよう心がけている。	●児童・保護者アンケート→肯定的な回答が90%以上	児No.14 保No.8	90.0% 78.6%	◆学校保健委員会で、「早寝・早起き・朝ごはん」をテーマに意識の向上を図った。引き続き、基本的な生活習慣が身に付くように働きかけたい。 ◆基本的な生活習慣が身に付くように、学年部会で保護者同士の意見交換を行い、意識の高揚を図りたい。	◇年間を通じて、業間運動を実施したり、朝、自主的にランニングする児童が増えたりしている点が素晴らしい。 ◇たくさんの児童が運動部活動に所属し、得手不得手に関わらず自分の目標に向かって努力していることが分かった。 ◇体力づくりのためにも外遊びは大切。遊びを通してルールを覚えることもできる。 ◇ノーチャイムで規則正しい生活ができている点が素晴らしい。自主的に行動できるようになる。
	②体力の向上と運動の習慣化を図る。	●業間運動の実施方法を工夫する。	●児童の体力が向上している。	●当該学年の体力テストにおける体力合計点→前年度の結果と比較し向上 ●当該学年の持久走の記録→向上した児童が80%以上	体力テスト 児No.15 保No.4	向上 98.8% 97.7% 100%	◆6年生の体力合計点は向上しているが、昨年度同様、ソフトボール投げに課題が見られるので、サーキットトレーニングへの導入など、対策を考えたい。 ◆業間運動への熱心な取組、休み時間や登校後の自主的な練習から、多くの児童が体を動かすことの楽しさを感じている。	
家庭・地域・中学校との連携	①開かれた学校づくりに努める。	●保護者や地域住民等に対して、教育活動に関する情報を積極的に発信する。	●各種たより、授業参観、学校Webサイト等を通して学校の様子を積極的に伝えている。	●保護者アンケート→肯定的な回答が90%以上 ●学校Webサイトの更新状況→昨年度より20%以上増加	保No.2	99.2%	◆学校・学年だよりの他、全学級が学級通信を発行したり、学校Webサイトの更新が倍増したりするなど、積極的に学校の様子を伝えることができた。今後も、保護者や地域の方々、学校教育活動に関心をもち、理解と協力が得られるよう、情報発信に努めたい。	◇授業参観の様子を見ると、ほとんど母親が参加していたが、父親参観日や祖父母参観日など設けてみるのもよいかもしれない。 ◇地域ボランティアによる朝の読み聞かせの時間が、子供たちの読書への関心を高めている。本に親しむ機会が増え、子供たちの知識や想像力が広がり、豊かな心を育てている。 ◇小中連携を深めるために、単に行事を増やすだけでは子供たちに負担をかけてしまう。何のために実施するのか目的意識をもって取り組むことが大切である。 ◇配慮を要する児童生徒については、幼保小中高が連携して継続して見ていってほしい。
	②中学校区での連携を推進する。	●教職員による交流の機会を設定する。 ●児童生徒の交流の場を設ける。 ●中学生ボランティアの活躍の機会を増やす。	●毛野中学校区3校の教職員が、互いの学校の特色を理解している。 ●6年生児童が中学校生活をイメージすることができる。 ●中学生ボランティアの活躍の機会が増えている。	●3校合同の研修会→1回以上実施 ●6年生児童と毛野中生との交流→1回以上実施 ●中学生ボランティアへの依頼数→増加	実施数 実施数 依頼数	1回 2回 増加	◆夏季休業中に3校合同の研修会を初めて開催することができた。今後も情報交換を中心とした研修会を開催していきたい。 ◆サマースクールの他、毛野中の合唱コンクールに参加する形で、6年生児童と毛野中生との交流が実施できた。中学校の雰囲気も味わうよい機会となった。 ◆運動会当日の後片付けに加え、足短附高校生によるサマースクールの支援を中学生ボランティアにも依頼し、小中高生の交流の機会をもつことができた。	
信頼される教職員	①教職員自らの資質の向上に努める。	●学力向上を目指して、授業改善に取り組む。	●教材研究を確実に行うとともに、学力向上を意識しながら、1時間1時間を大切にしながら授業の展開に努めている。	●「とちぎっ子学習状況調査」及び「全国学力・学習状況調査」の結果一県や全国の平均正答率を上回っている	結果 児No.9 保No.6 保No.7	上/下 97.0% 92.1% 92.9%	◆教科に関する調査では、県や国の平均正答率を上回っている学年もあれば、そうでない学年もあった。学習意欲等に関する質問紙調査は、どの学年も良好であった。今後も、学び合い学習を意識した授業形態を工夫しながら、確かな学力の定着に向け、全校体制で指導方法の工夫・改善に取り組んでいきたい。	◇学校が生き生きとしている。 ◇学校内がいつもきれいで、物が整然としており、教室環境が整っている。 ◇あいさつや合唱など、毛野南小のよき伝統が引き継がれている。 ◇地域の事業所等の体験プログラムを活用するなど、地域を取り込みながら教育活動の充実を図っている。 ◇学習発表会で、子供たちが工夫しながら堂々と発表していたが、陰で先生方が頑張っていることが伝わった。
	②児童一人一人の気持ちや考えを聴き取り、支え励ます。	●児童との触れ合いを通じて児童理解に努めるとともに、共感的な人間関係の確立を目指す。	●教師自身が言動に配慮しながら、児童との心の交流に努めている。	●保護者アンケートにより、状況を把握する。→肯定的な回答が90%以上	児No.7 保No.5	97.7% 90.6%	◆関連アンケート「先生は相談にのってくれる」(児童)、「教師は日頃から子供の様子を把握し子供や保護者との連携や相談に努めている」(保護者)の両項目において、「そう思う」と回答した割合が昨年度より増えた。今後も、一人一人の児童にとって居がいの学校となるよう、教職員間で情報を共有し、同一歩調で指導できる校内体制の充実を努めたい。	